

デジタル教科書（マルチメディアデイジーを含む）や 教材の活用研究



デイジー(DAISY) (Digital Accessible Information System)

○デイジーとは「アクセス可能な情報システム」と訳されている。

○音声だけではなく、文字テキストやイメージ画像といったマルチメディアが使われていることから、弱視者だけではなく、学習障害、知的障害、その他何らかの障害のために通常の読書が困難な人や文字が読みづらくなってきた老人まで、使用可能な媒体となってきた

（『LD・ADHD等関連用語集第3版』抜粋） → 「マルチメディアデイジー」と呼ぶ場合もある

1 研究主題設定の理由

最近の時流

「障害のある児童生徒にとって情報機器の活用は障害の状態を改善・克服したり学習を効果的に進め、社会参加の手立てを広げるために有効である。」
(「特別支援教育の基礎・基本」独立行政法人国立特別支援教育総合研究所より抜粋)

学校では・・・

「わかる・できる授業作り」で、その有効性は高く認識され、その活用事例が各地で報告されはじめている。



SSCとして

京都府スーパーサポートセンターは京都府における特別支援教育の拠点という立場で、授業改善・授業作りに着目しつつ、京都府のみならず京都府外からもデジタル教科書(マルチメディアデージーを含む)や教材の効果的な指導法について情報収集しつつ研究を進め、府内に発信することを目的に以下の内容で研究を進めることとした。

2 研究について

(1) 目的

デジタル教科書(マルチメディアデイジーを含む)や教材の効果的な指導法について情報収集及び研究をすすめ、府内に発信する

(2) 内容

デジタル教科書(マルチメディアデイジーを含む)や教材の効果的な指導法や活用方法に関わる情報収集・研究及び発信

(3) 方法

- ア 総合教育センターと常に連携協力を図りつつ、指導助言も得ながら取組をすすめる。
- イ 必要に応じて特別支援教育課からの情報提供及び指導助言を得ながらすすめる。
- ウ 先進的な取組を視察する等活用の状況等を収集し、発信する。
- エ 京都府内外の小中高等学校、特別支援学校におけるデジタル教科書(マルチメディアデイジーを含む)や教材の活用について情報収集し研究を進める。
- オ 宇治支援学校の授業改善の取組と連動して教材研究を進める。

(4) 結果

今年度は特に視察等情報収集を主にした取組を行った。なお、本調査研究は経年の取組として、次年度に引き継ぐ。

授業におけるデジタル活用事例

【宇治支援学校での事例】

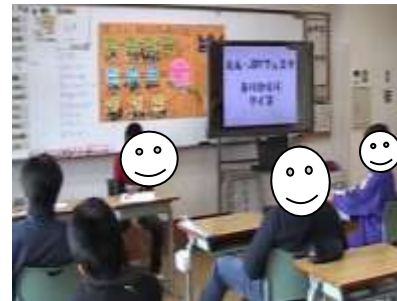
修学旅行の事前学習において、旅館での過ごし方、公共施設での過ごし方を教員がロールプレイしたものを録画し、生徒たちに修学旅行の具体的なイメージを持たせる。

授業の導入において活用する。

(パワーポイントソフトを使った個人の能力に合ったクイズが画面上に現れるものや物語の主人公になった教員がテレビの中から児童たちに呼び掛けるなどのビデオを制作等)

活動の振り返りに活用する。

(生徒の活動している様子を流し、
自らの行動を振り返られるようにする)



ふりかえりクイズの例

活動を始める前に「事前学習」として、パワーポイントソフトを活用したものを見て、活動の内容や流れを知る。

交通安全に関する学習を、パワーポイントソフトを活用したもので、学年全体で行う。

(その後、内容共有できるため、学部全体で活用した。)

その他、府外の学校視察を行った。(2校)